様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００４１０

研究課題名（和文）Vladimir Nabokovの小説に隠された分析哲学者の研究

研究課題名（英文）Analytic Philosophers Hidden in the Work by Vladimir Nabokov

研究代表者
中田　晶子（Nakata, Akiko）

南山大学・外国語教育センター・教授

研究者番号：１０１９８１１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ウラジーミル・ナボコフの小説に隠された分析哲学者について明らかにし、作中の分析哲学的テーマについて考察することである。ポーランドで出版された論集に『透明な対象』論を寄稿し、同小説において重要なテーマ群をひそかに形成する固有名詞（ムーアを含む）について紀要論文を執筆した。海外のナボコフ研究者２名を招き、国内から分析哲学研究者を招いて、5週間にわたり文書提示によるオンライン方式で国際シンポジウム「ナボコフと分析哲学者」を開催し、報告、コメント、議論、質疑応答のすべてを収録した報告書を出版した。最終年度にはアメリカで開催された国際学会でシンポジウムの報告を補完する内容の報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ナボコフと分析哲学者の研究は、報告者の研究がパイオニア研究となっており、本研究はそれをさらに発展させたものとして学術的意義を持つものである。さらに研究の成果として、国際的に著名なナボコフ研究者2名を海外から招いて「ナボコフと分析哲学者」と題する国際シンポジウムを開催したことは、国内のナボコフ研究においても大きな成果となった。シンポジウムは、文書提示によるオンライン方式での開催であり、テーマ、開催方法、開催期間のいずれも世界初の試みとなった。分析哲学を専門とする国内の研究協力者をコメンテータとし、フロアの分析哲学の研究者からの質問を得て、学際的な成果も十分に得られた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to reveal a few analytic philosophers hidden in Vladimir Nabokov's novels and to discuss the analytic-philosophical themes in them. I contributed a paper on the memories in _Transparent Things_ to a volume of essays published in Poland. I also wrote a journal article on proper nouns, including Moore, which form essential themes in the work. Two Nabokovians from abroad and a scholar in analytic philosophy in Japan were invited to the five-week international symposium online with document presentations, for which I was a speaker and the moderator. The papers, comments, discussions, and questions & answers from the symposium were all published in the proceedings. In the project's final year, I read online a paper that complemented my symposium presentation at an international conference held in the United States.

研究分野：英米文学

キーワード：ナボコフ　分析哲学　ウィトゲンシュタイン　G. E. ムーア　シェイクスピア　語りえぬもの　英米文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

作家ウラジーミル・ナボコフの作品と哲学、思想との関連については、従来ベルクソンとフロイトが中心的に論じられてきた。前者は、「時間の存在を信じない」と自伝の中で語ったナボコフにベルクソンの体験的時間や内面的自由を重ねて考えるものが中心で、両者の親和性を重視した上での研究である。後者は、終生フロイトの精神分析に基づく文学解釈を忌み嫌っていたナボコフの作品に見られるフロイト的な要素について思考するという傾向のものが多く見られる。さらに近年は、ナボコフとニーチェやカントを論じた研究書が出版されているが、ナボコフと分析哲学との関連についての研究はほとんど例がなく[1]、報告者のナボコフとウィトゲンシュタインに関する論考が国内外において先駆的研究となっている。ナボコフとウィトゲンシュタインに関する拙論としては、ナボコフ晩年の中篇小説『透明な対象』における主人公の死および死後の世界への移行の描き方を『論理哲学論考』に関連づけて論じた「死と隠蔽―*Transparent Things* を中心に」（研究社、『英語青年』1999 年 11 月号（総号 1809 号））と、二人の伝記的記録から推測される接点の可能性や『透明な対象』におけるウィトゲンシュタインへの引喩や暗喩について論じた“Wittgenstein Echoes in *Transparent Things*”（The Vladimir Nabokov Society, *The Nabokovian* 45, 2000)がある。本研究では、ウィトゲンシュタインに加えて、『透明な対象』にさらに隠された存在である G. E. ムーアの思想と作品との関連を扱う。

[1] 唯一の例が、スペインの文献学者・米文学者カテリナ・モンテスがナボコフの自伝に登場するチェスのテーマを、ソシュールの言語理論（特にシーニュの概念）、ウィトゲンシュタインの言語ゲーム理論、ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』に寄せたラッセルの序文と比較した研究ノート“Notas sobre la escritura de Nabokov a la luz de su autobiografia y de las reflexiones sobre la lengua de Saussure, Russell y Wittgenstein”(*Atlantis: Revista de la Asociacion Espanola de Estudios Anglo-Norteamericanos*, 12: 2, 1991)である。この論考は、スペインの学会誌にスペイン語で掲載されたことと著者によるナボコフに関する唯一の業績であったことが影響したためか、ナボコフ研究界で知られておらず、報告者も今回の調査により遅ればせながら知ったものである。ナボコフと分析哲学者を論じた初めての論考であるが、ナボコフ作品と諸理論との比較が大枠に過ぎる傾向に加えて、「ナボコフはケンブリッジ大学で学んでいたのだから、学生時代にウィトゲンシュタインやラッセルを知っていたはずであり、著作を読まなかったはずがない」等の強引な推論が惜しまれる。

２．研究の目的

本研究の目的は、作家ナボコフに対する分析哲学者ウィトゲンシュタイン、G. E. ムーアの影響について、また、ナボコフ作品と彼らの思想との関係について明らかにすることである。報告者のこれまでの研究をさらに発展させる形で、『透明な対象』を中心に、死、死後の存在、生の謎、語りえぬもの等の主題を、ウィトゲンシュタインや G. E. ムーアの論考との関連において調査し、考察する。詳細なテクスト分析により、分析哲学とナボコフ作品の間に見られる言語的、哲学的な親和性あるいは影響関係を論じ、作家の世界観や死生観にかかわる問題と分析哲学者の論考が結びつく可能性を論じる。

伝記的事実の調査により、実人生におけるナボコフと哲学者らとの接点、さらには、ナボコフの在学時にケンブリッジ大学トリニティカレッジを本拠地として盛んであったアカデミックな心霊研究との関係をも含めて探究することをめざすものである。本研究の成果により、『透明な対象』の作品研究のみならず、ナボコフと哲学に関する研究に新分野を拓く可能性もあり得る。

３．研究の方法

当初の予定では、海外における文献・資料の調査を中心とし、ニューヨーク公立図書館のバーグコレクションでの未公開書簡やケンブリッジ大学での心霊学協会の会報や協会員の記録等に関する現地調査を考えていたが、2020 年春から続いたコロナ禍のため、海外での調査は諦め、国内でも入手可能な文献を中心とした研究に切り替えた。

ウィトゲンシュタインの伝記、ムーアの自伝と伝記、バートランド・ラッセルの自伝に加えて、レナード・ウルフの回想記等の諸資料にあたり、20 世紀の初めから中頃にかけてケンブリッジ大学トリニティカレッジに在籍した 3 人の分析哲学者とナボコフとの接触の可能性について調べるとともに、研究における同僚であり友人であったウィトゲンシュタインとムーアの関係についても詳しい情報を収集した。

ウィトゲンシュタインの著作は本研究に関連すると考えられる『論理哲学論考』『哲学探究』『青色本』『確実性の問題・断片』『講義集』『色彩について』『ウィトゲンシュタイン哲学宗教日記』を中心に精読し、それらの著書に関する研究書や論文で理解を深めた他、ウィトゲンシュタインをテーマとした小説、戯曲、映画にもあたった。

ムーアの著作は『倫理学』『観念論の論駁』に加えて重要とされる諸論文を読んだ。「ムーアのパラドクス」に関しては、ムーアによる同名の文書、ウィトゲンシュタインの記述の他に、当該パラドクスをテーマとした論集にあたった。また、ムーアとウィトゲンシュタインを比較した研究書を検討した。分析哲学を専門とする研究協力者小山虎氏より、ムーアに関して広範な助言を受けた。

研究協力者ブライアン・ボイド氏―浩瀚なナボコフ伝を著し、ナボコフの人生について細部に至るまで知悉した研究者である―にケンブリッジでの学生時代やコーネル大学での教員時代のナボコフの生活や交友範囲について確認を得た。

『透明な対象』における『ハムレット』、『オセロ』のテーマについて研究を進め、ハムレット伝説の元となったサクソ・グラマティクスの『デンマーク人の事績』のアムレスのエピソードと『透明な対象』の関連や、『オセロ』の舞台となった時代のヴェネチアの他民族状況について確認した。また、『透明な対象』に頻出するムーア名について G. E. ムーアの反映を含めて再考した。

3 人の分析哲学者の心霊研究への関わりについて伝記的資料を中心に調査を試みたが、各人とキリスト教との関係について知識を得たものの、本来の目的については有益な結果を得ることができなかった。

４．研究成果

2019 年度には、ポーランドで出版されたナボコフの記憶をテーマとした論集で『透明な対象』論（査読有）を公刊した他、ナボコフ短篇読書会において初期の短篇小説「翼の一撃」について、1920 年代の西欧の知識層の思想的傾向を知り得る作品として、発題を行った。

2020 年度には、『透明な対象』において重要なテーマ群を密かに形成する固有名詞群の機能についてムーア名を中心に、シェイクスピア作品との関連も含めて、紀要論文（無査読）で論じた。

2021 年度には、本研究の主要な成果発表の場として国際シンポジウム"Vladimir Nabokov and Analytic Philosophy"を 5 月中旬から 5 週間にわたって文書提示によるオンライン方式で実施した。海外から参加した研究協力者ブライアン・ボイド氏はナボコフとカール・ポパーの対照性と近似性について、同じくゾラン・クズマノヴィチ氏はナボコフとグレゴリー・カリーについて「物に対する共感」をテーマに論じた。報告者は『透明な対象』においてウィトゲンシュタインと G. E. ムーア がそれぞれの名前と哲学的仮説によって作品中で果たしている役割を中心に論じ、司会を担当し

た。研究協力者小山虎氏はコメンテイターとして報告へのコメントと討議を行った。シンポジウムで提示された文書の量を単純計算で口頭発表に置き換えると約 11 時間にわたって語り続けたことになる。シンポジウムのテーマ、開催方法、開催期間のすべてにおいて世界初と言えるプロジェクトとなった。

フロアからの質疑応答も含めてシンポジウムのすべてを収録し、日本ナボコフ協会会長沼野充義氏による Foreword と報告者による Acknowledgments を加えた 130 頁を超えるプロシーディングスを報告者の編集により 2021 年度末に出版した。

2022 年度には、アメリカで開催されたナボコフの国際学会（The International Vladimir Nabokov Society, “Hidden Nabokov” 於 Wellesley University）に遠隔で参加し（審査有）、『透明な対象』において「ムーアのパラドクス」がどのように応用されているかを詳細に論じた。国際シンポジウムでの報告を補完する内容であり、海外のナボコフ研究者と意見交換ができて有益であった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 中田晶子	４．巻 109
２．論文標題 変奏と変装―_Transparent Things_の固有名詞	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『アカデミア』文学・語学編	６．最初と最後の頁 163-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15119/00003030	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中田晶子	４．巻 第56号
２．論文標題 〔書評〕秋草俊一郎著　『アメリカのナボコフ―塗りかえらえた自画像』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『アメリカ文学研究』	６．最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Akiko Nakata
２．発表標題 Ludwig Wittgenstein and G. E. Moore Hidden in _Transparent Things_
３．学会等名 2021年度日本ナボコフ協会年次大会（国際シンポジウム）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中田晶子
２．発表標題 「翼の一撃」発題
３．学会等名 第5回ナボコフ短篇読書会「移動祝祭日」(A Moveable Feast)
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nakata
２．発表標題 Those That Are Hidden in Some Proper Nouns in _Transparent Things_
３．学会等名 Hidden Nabokov: International Vladimir Nabokov Conference at Wellsley（国際学会）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 Akiko Nakata (Editor)	４．発行年 2022年
２．出版社 The Nabokov Society of Japan	５．総ページ数 134
３．書名 Vladimir Nabokov and Analytic Philosophy: The Proceedings of the International Symposium	

１．著者名 Irena Ksiezopolska & Mikolaj Wisniewski (eds), Akiko Nakata, Leona Toker, Stephen H. Blackwell, Dana Dragunoiu, Gerard de Vries, et. al.	４．発行年 2019年
２．出版社 Fundacja Augusta hr. Cieszkowskego	５．総ページ数 349
３．書名 Vladimir Nabokov and the Fictions of Memory	

〔産業財産権〕

〔その他〕

１）国際シンポジウム開催ページ
Vladimir Nabokov and Analytic Philosophy
http://vnjapan.org/main/symposium2021.html
2021年5月15日～6月20日

２）エッセイ
「国際シンポジウム顛末記」
日本ナボコフ協会誌『Krug』第14号（2021年）
39－43頁

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	ボイド　ブライアン (Boyd Brian)		
研究協力者	クズマノヴィチ　ゾラン (Kuzmanovich Zoran)		
研究協力者	小山　虎 (Koyama Tora)	山口大学	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
International Symposium: Vladimir Nabokov and Analytic Philosophy	2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ニュージーランド	University of Auckland			
米国	Davidson College			